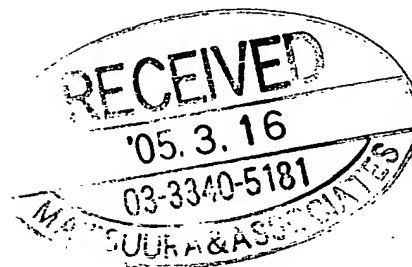


特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）



出願人代理人  松浦 憲三  あて名  〒 163-0220  日本国東京都新宿区西新宿二丁目6番1号 新宿住友ビル20階 私書箱第176号 新 都心国際特許事務所	様
--	---

PCT  
国際調査機関の見解書  
(法施行規則第40条の2)  
[PCT規則43の2.1]

発送日  
(日.月.年)

15.03.2005

出願人又は代理人 の書類記号	MD2004-006PC	今後の手続きについては、下記2を参照すること。	
国際出願番号 PCT/J P 2004/016537	国際出願日 (日.月.年) 08.11.2004	優先日 (日.月.年) 12.11.2003	
国際特許分類 (IPC) Int. Cl. A61B6/03			
出願人 (氏名又は名称) 株式会社日立メディコ			

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☒ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日 01.03.2005			
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 安田 明央	2W	9309
電話番号 03-3581-1101 内線 3290			

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

## 第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎として作成した。  
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☐ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる

☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

## 第Ⅲ欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成

1. 次に関して、当該請求の範囲に記載されている発明の新規性、進歩性又は産業上の利用可能性につき、次の理由により審査しない。

☐ 国際出願全体

☒ 請求の範囲 5

理由：

☐ この国際出願又は請求の範囲 5 は、国際予備審査をすることを要しない次の事項を内容としている（具体的に記載すること）。

☒ 明細書、請求の範囲若しくは図面（次に示す部分）又は請求の範囲 5 の記載が、不明確であるため、見解を示すことができない（具体的に記載すること）。

請求の範囲 5 に記載の時間軸方向抽出工程は、画像データに含まれる各画素について、画素座標位置毎に所定時間内に含まれる第一時刻における画素値と、前記所定時間内に含まれる第二時刻における画素値とを時系列に沿って順次比較し、所定の条件に合致する画素を時間軸方向抽出するものであるが、明細書には具体的なものが一切記載されていないから、PCT第5条の意味での開示を欠き、PCT第6条の意味での明細書の開示による裏付けを欠いている。さらに、出願時の技術常識を勘案してもPCT第6条における明確性の要件を欠いている。

☐ 全部の請求の範囲又は請求の範囲 5 が、明細書による十分な裏付けを欠くため、見解を示すことができない。

☒ 請求の範囲 5 について、国際調査報告が作成されていない。

☐ ヌクレオチド又はアミノ酸の配列表が、実施細則の附属書C（塩基配列又はアミノ酸配列を含む明細書等の作成のためのガイドライン）に定める基準を、次の点で満たしていない。

書面による配列表が

- ☐ 提出されていない。
- ☐ 所定の基準を満たしていない。

コンピュータ読み取り可能な形式による配列表が

- ☐ 提出されていない。
- ☐ 所定の基準を満たしていない。

☐ コンピュータ読み取り可能な形式によるヌクレオチド又はアミノ酸の配列表に関連するテーブルが、実施細則の附属書Cの2に定める技術的な要件を、次の点で満たしていない。

- ☐ 提出されていない。
- ☐ 所定の技術的な要件を満たしていない。

☐ 詳細については補充欄を参照すること。

## 第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-4, 6-27	有 無
	請求の範囲		
進歩性 (IS)	請求の範囲	4, 12, 13, 17, 21, 23-25, 27	有 無
	請求の範囲	1-3, 6-11, 14-16, 18-20, 22, 26	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-4, 6-27	有 無
	請求の範囲		

## 2. 文献及び説明

請求の範囲1-3, 6-11, 14-16, 18-20, 22, 26

文献1: JP 11-137552 A (ジーイー横河メディカルシステム株式会社) 1999.05.25 (ファミリーなし)

文献2: JP 2001-252263 A (株式会社東芝)  
2001.09.18 (ファミリーなし)

文献1には、医用画像撮影装置により所定時間にわたって被検体を撮影することにより得られた時系列に並んだ画像データが入力される入力工程と、前記画像データに基づいて3次元画像を構成する構成工程とを含む画像処理方法が記載されており、文献2には、被検体を撮影することにより得られた時系列に並んだ画像データについて、画像座標位置毎に前記時系列に並んだ全画素の中から所定の条件に合致する画素を時間軸方向抽出する時間軸方向抽出工程を含む画像処理方法が記載されており、文献1記載の画像処理方法においても、文献2に記載されるように、時系列に並んだ画像データについて、画像座標位置毎に前記時系列に並んだ全画素の中から所定の条件に合致する画素を時間軸方向抽出することは当業者が容易に想到しうることである。文献2にはまた、前記所定の条件が、各画素座標位置における前記時系列に並んだ全画素の中から最大画素値または最小画素値に相当する画素を時間軸方向抽出することも記載されている。文献1には、造影剤が存在する時刻の画層と造影剤が存在しない時刻の画像との差分画像を求めることも記載されており、造影剤が最も鮮明な画像である、最大画素値に基づいて時間軸抽出処理により得た第一の画像と、造影剤が存在しない画像である、最小画素値に基づいて時間軸抽出処理により得た第二の画像との差分画像を求めることは当業者が容易に想到しうることである。

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

## 第 V 欄の続き

## 請求の範囲4, 25

時系列に並んだ画像データについて、画像座標位置毎に前記時系列に並んだ全画素の中から任意の画素値、或いは、中央値となる画素値に相当する画素を時間軸方向抽出することは、国際調査報告で引用されたいずれの文献にも記載されておらず、しかもその点は当業者といえども自明のものではない。

## 請求の範囲12, 13, 17

所定時間内の第一時刻における画像データに含まれる各画素の画素値と前記所定時間内の第二時刻における画像データに含まれる各画素の画素値との変化量が所定値以下である領域に含まれる各画素について、画素座標位置毎に前記第一時刻から前記第二時刻までの画素値の平均値を算出し、前記変化量が所定値以下である領域に含まれる各画素の画素値が前記平均値であり、前記変化量が所定値よりも大きい領域に含まれる各画素の画素値が前記画像データの画素値である加工画像を作成することは、国際調査報告で引用されたいずれの文献にも記載されておらず、しかもその点は当業者といえども自明のものではない。

## 請求の範囲21

時系列に並んだ画像データについて、時系列に沿って所定の時間軸方向重み付けを行うことは、国際調査報告で引用されたいずれの文献にも記載されておらず、しかもその点は当業者といえども自明のものではない。

## 請求の範囲23, 24, 27

所定時間に含まれる注目時刻における画像データの画素値と、前記注目時刻の前後における画像データの画素値との加算平均値、或いは、加重加算平均値を算出することは、国際調査報告で引用されたいずれの文献にも記載されておらず、しかもその点は当業者といえども自明のものではない。